

# 心を育てるNIE ～人の思いや生き方を学ぶ～

新発田市立御免町小学校

## 1 学校の概要

御免町小学校（藤井聡校長，児童数 481 人）は，148 年の歴史と伝統のある学校である。当校では，教育課題克服に向けて職員と児童が一体となって取り組むために，テーマを毎年設定している。令和元年度のテーマは「挑戦」で，児童は様々なことに挑戦し，挑戦の価値を学んだ。令和2年度のテーマは「誰かのために」である。自分も含めた誰かのために挑戦する心，学んだことを誰かのために生かそうとする心を育てることができるように，グランドデザインの中心に徳育を置き，心を育てる教育活動を推進している。

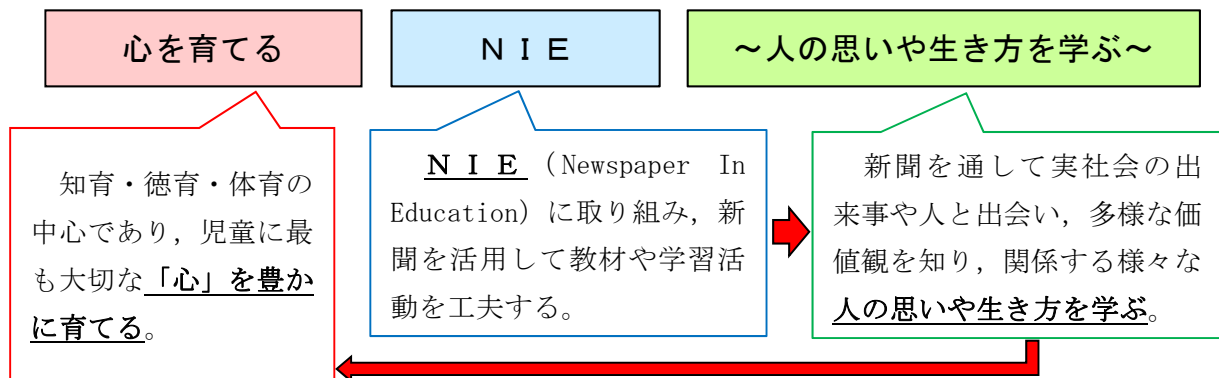


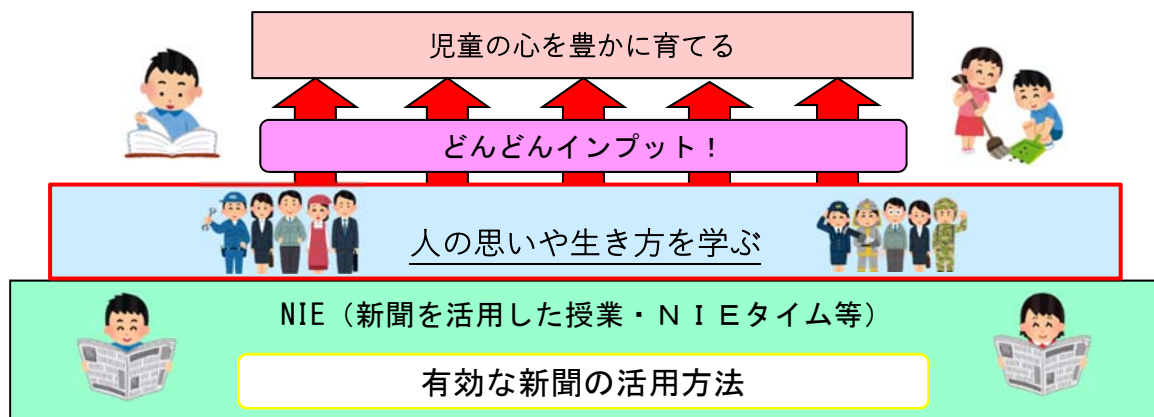
## 2 NIE実践のねらい

当校では，グランドデザインの中心に徳育を据え，児童の心を豊かに育てることを大切にしている。徳育により心を育てることは，知育や体育にもよい影響を及ぼすからである。これまでの組織的な徳育の取組等により，御免町小学校には素直で心優しい児童が多く，児童は落ち着いた雰囲気ですchool生活を送ることができている。その反面，自分から行動しようとする姿勢や自信をもてない児童もあり，受け身になりがちな傾向がある。このような実態の児童が，よりたくましく「挑戦」したり，「誰かのために」行動を起こしたりするためには，今まで以上に心を育てることに注力する必要がある。

そこで，新聞の活用を図り，「人の思いや生き方を学ぶ」ことに取り組む。

新聞には実社会の出来事が扱われ，そこに関わる様々な人の思いや生き方があふれている。まさに，「新聞は人がテーマ」である。新聞を活用することにより，学校の中だけでは出会えない実社会の様々な人と関わり，その思いや生き方を学ぶことができる。そして，様々な人の思いや生き方を自分の中にインプットすることで児童は心を豊かにし，「挑戦」や「誰かのために」行動する姿をアウトプットできるようになっていくと考える。





しかし、新聞は児童にとって身近なものではない。日常的に新聞を手にする習慣がある児童は少ない。児童と新聞の距離を近付け、新聞を児童の身近なものにするためには教師の工夫が必要である。そして、新聞を読んで人の思いや生き方を学べるようにするためには、さらに工夫が必要である。そこで、「新聞を児童の身近なものにするために」と「新聞を読ませ、人の思いや生き方を学ばせるために」の2つの視点から手立てを工夫してNIEを行い、人の思いや生き方を学ばせるために有効な新聞の活用方法を見出していく。

### 3 本年度の実践の概要

#### (1) 職員研修

5月25日に、当校の藤井聡校長を講師として、「NIE学習会」を実施した。「新聞は人がテーマである」「いつか児童が新聞に主体的に関わり、人の思いや願いを探すようになってほしい」「新聞と児童には距離があるので、教師の工夫と努力で身近なものにする」など、当校のNIEの基本となる考え方を職員が共通理解することができた。



#### (2) 授業研究

全職員参観の授業研究会を3回実施した。「新聞を児童にとってより身近なものにするために」と「新聞を読ませ、人の思いや生き方を学ばせるために」について手立てを工夫して授業を行った。協議会では、成果と課題を出し合った。

【第1回授業研究会】7月15日 4年3組 道徳

【第2回授業研究会】9月25日 特別支援学級7組 国語

【第3回授業研究会】12月9日 2年3組 生活科（まとめの授業研修会）

#### (3) NIEタイム

毎週金曜日の朝学習の15分を「NIEタイム」とし、各学級でNIEに取り組んだ。新聞を手にとって気になる写真を見付ける、記事をNIEノートにスクラップして感想を書く、自作のワークシートを使って記事について考えるなど、新聞に親しんだり、記事を読んで人の思いを考えたりする活動を実施した。



#### (4) N I E の環境整備と情報の共有・蓄積

##### ① 新聞棚

職員室に新聞用の棚を置いて、毎日来る新聞を保管し、いつでも教材研究に活用できるようにした。また、教室用の新聞は家庭に呼びかけて集め、空いたロッカーを活用するなどして保管できるようにした。

##### ② 新聞関係のコンクールの紹介

夏季休業に入る前に、新聞関係の各種コンクールについて情報提供をし、学級担任から児童に紹介して応募を呼びかけた。

##### ③ N I E コーナー（掲示板）

児童玄関正面に、N I Eに関する掲示板を設けた。取組の前半は、教師が児童に紹介したい記事を掲示し、児童が新聞への興味をもてるように工夫した。取組の後半は、低学年部、中学年部、高学年部のそれぞれの実践の様子を掲示し、職員がN I Eの情報を共有できるようにするとともに、児童や来校者の目にも触れるようにした。

##### ④ 啓明通信N I E（研究だより）

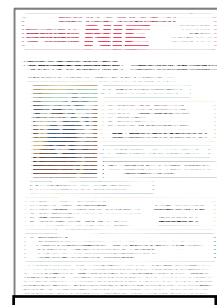
職員が取り組んだN I Eの情報提供を求め、「啓明通信N I E」という研究便りにまとめて発行した。研究授業だけでなく、N I Eタイムなどの日常の取組についても取り上げ、職員がN I Eの情報を共有できるようにした。



新聞棚



新聞記事スクラップコンテスト  
団体賞 受賞



啓明通信N I E



N I E コーナー（掲示板）

## 4 実践例

### (1) **実践例 1** 4 年 3 組 道徳 「休校中の出来事～誰かのために～」

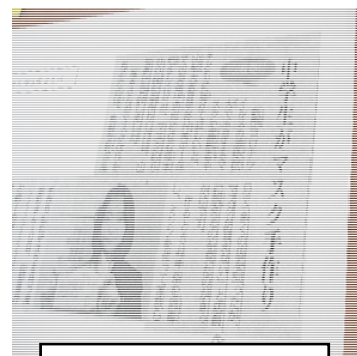
#### ① ねらい

休校中に手作りマスクを寄付する記事や、ごみ収集作業員に感謝の手紙を書いている新聞記事を読み、その人々の思いを感じさせることを通して、自らも「誰かのために」進んで行動しようとする意欲をもたせる。

#### ② 使用した新聞記事

休校中に貯めておいた自分のお年玉でマスクを手作りして寄付した中学生の新聞記事と、ごみ収集所に置かれた感謝の手紙についての記事を使用した。

- ・「中学生がマスク 600 枚手作り」  
(岩手日報子ども新聞 2020 年 3 月 24 日)
- ・「休校中、マスク手作り」  
(新潟日報 2020 年 6 月 5 日)
- ・『『ごくろうさま』『ありがとう』ごみ収集作業員にメッセージ』(新潟日報 2020 年 5 月 12 日) 他



使用した新聞記事

#### ③ 手立て

ア 新聞を児童にとってより身近なものにするために

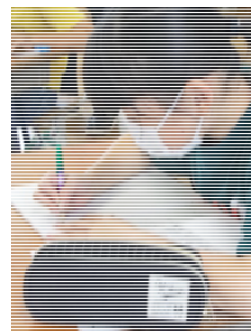
新聞記事の写真を拡大したもの、全体の写真、見出しなどと、段階的に提示することで、児童の記事への興味を高める。

イ 新聞を読ませ、人の思いや生き方を学ばせるために

中学生の行動について自分がどう思うかを交流させた後で、中学生がマスクを作った理由を考えさせる。

#### ④ 授業の実際

導入では、児童に休校中に取り組んだことを尋ね、休校中の自分の行動を振り返らせた。それから、パワーポイントを使って記事の写真をアップで見せ、写真全体、見出しと段階的に記事を見せた。児童は、アップの写真から「何を渡しているんだろう？」と疑問を持ち、記事への興味を高めていた。記事を読んでから中学生の行動について自分が思ったことを発表させると、「お年玉を使ってまで自分で作ろうとする気持ちがすごい。」や「やった方がいいけど、自分にはできない。」などと話していた。そして、「どうして中学生はマスクを作ることになったのか？」と発問すると、記事から「マスクがなくて困っている高齢の女性を見かけたから。」と考える姿や、「世の中の危機を救いたい。」「困っている人やお世話になっている人を助けたい。」などと自分なりに中学生の思いを推し量りながら考える姿が見られた。さらに、ごみ収集作業員への感謝の手紙の記事を紹



介し、思ったことを尋ねると、「がんばっている人にありがとうと伝えたい。」「手紙であれば自分もやってみたい。」といった考えが出され、「誰かのために」行動しようという思いをもつことができた。

## (2) **実践例 2** 特別支援学級 7 組 (4 年) 国語 「短歌・俳句に親しもう」

### ① ねらい

川柳の作者が作品に込めた思いを想像したり、実際に作者の思いを聞いたりすることを通して、他者の思いを推し量る力を高めたり、よりよく生きるために必要な言葉を考えたりし、学んだことを今後の生活に生かそうとする。

### ② 使用した新聞記事

短歌や俳句だけでなく、川柳も掲載された新聞の文芸欄から、次の作品を使用した。

- ・俳句「三食を 筍ごはん おかずなし」(新潟日報 2020 年 6 月 29 日)
- ・川柳「口下手な 私も言える ありがとう」(新潟日報 2020 年 8 月 16 日) 他

### ③ 手立て

ア 新聞を児童にとってより身近なものにするために

新聞を手にとって俳句を探させ、児童が自分から新聞に関わることができるようにする。

イ 新聞を読ませ、人の思いや生き方を学ばせるために

文芸欄の川柳を扱い、川柳の一部を空欄にすることで、作者の思いについて想像できるようにする。また、作者からの手紙を音声化したものを聞かせ、どんな思いで作品を作ったのかを知らせることで、作品に込められた思いを学べるようにする。

### ④ 授業の実際

導入では、児童 1 人に新聞を 1 部ずつ渡し、前時に学習した俳句「三食を～」を新聞から探させた。児童は 1 面の目次をヒントに俳句を探し、文芸欄にたどり着いた。児童は、自分たちが勉強した俳句が新聞にあったことに驚き、新聞に興味を持って他の作品を自分から読んでいた。文芸欄の中に俳句と似ているが俳句ではないものがあることを伝え、児童は新聞をよく見て川柳を見つけた。川柳の特徴を「五・七・五だけど季語がいらないので、思いを込めやすい」と説明し、川柳を読んで作者の思いを考えることを課題とした。次に、川柳「口下手な～」の「ありがとう」の部分空白にして児童に提示し、入る言葉を考えさせた。児童は自分の生活経験を思い出しながら、口下手でも言えるという言葉として「あいさつだ」や「ごめんなさい」「ありがとう」と考えていた。そして、作者から手紙が届いたことを伝え、手紙を音声化したものを聞かせて「ありがとう」が入ることを知らせると、考えたことが当たっ



ていたことに喜ぶとともに、「口下手であっても感謝の思いを言葉で伝えたい。」という作者の思いを感じていた。

### (3) **実践例 3** 2 年 3 組 生活科「えがおのひみつ たんけんたい」

#### ① ねらい

まち探検で訪ねたお店の記事について要約した内容を聞き、お店の人の思いを想像して吹き出しに書いたり、ビデオメッセージでお店の人の話を聞いたりすることを通して、仕事に対する思いや生き方に気付く。

#### ② 使用した新聞記事

まち探検で訪ねた地域の菓子店「新柳本店」の渡辺さんが、新発田農業高校の生徒が育てた卵を使用して新商品のチーズケーキを開発したという記事を使用した。

・「素材こだわり 納得の味」

(新潟日報 2020 年 10 月 17 日)



#### ③ 手立て

ア 新聞を児童にとってより身近なものにするために

まち探検で関わった渡辺さんの記事を見せることで、記事への関心を高める。また、記事を読み聞かせる際にパワーポイントで記事の内容の解説をし、記事の内容を理解できるようにする。

イ 新聞を読ませ、人の思いや生き方を学ばせるために

記事を N I E ノートに貼り、写真に吹き出しをつけて渡辺さんになりきって思いを書かせる。また、自分なりに思いを考えた後で渡辺さんのビデオメッセージを見せることで、思いや生き方についての学びを深める。

#### ④ 授業の実際

授業が始まってすぐに新聞記事を配った。児童は、渡辺さんの写真に気付き、歓声を上げていた。N I E ノートに貼って吹き出しを書くことを伝え、すぐにすることを理解し、「気持ちをかんがえるのね。」とつぶやいていた。次に、記事を読みながらパワーポイントを見せて解説を加えた。新発田農業高校の卵の話題の際に、1 年生の時に同校の農場を見学して卵をさわったときの写真を見せると、卵の感触を思い出して「ざらざらしていた」などつぶやき、記事をさらに身近に感じていた様子だった。そして、「どうして新発田農業高校の卵を使ったのか？」と訪ね、グループで話し合わせた。児童は話し合いの中で「おいしかったから。」「生徒が一生懸命作っていたから。」などと話し、農業高校の卵を使った渡辺さんの思いを想像していた。その後、渡辺さんになりきって

新発田のうぎょう高校  
長みねのう場



記事を解説したパワーポイントの一部



吹き出しにその思いを書かせた。「高校生とチーズケーキが人気になってほしい。」や「新発田の卵で作ったおいしいチーズケーキをいろいろな人に食べてほしい。」等、渡辺さんの地域への思いを想像している記述が見られた。最後に、ビデオレターを見せ、渡辺さんの思いを聞かせたことで、児童は「食べた人に幸せな気持ちになってほしいと思っているんだ。」「農業高校のことを知ってもらいたいんだね。」と、渡辺さんの思いをさらに深く学んでいた。

#### (4) **実践例 4** 1年1組 NIEタイム「写真すごろく」

##### ① 実践の概要

まず、新聞から自分が気に入った写真を切り抜く。次に、その写真を台紙に貼り、すごろくになるようにマスでつなぐ。そして、写真に吹き出しを付け、コメントと「○マス進む」「○マス」を書き込む。このようにして作ったすごろくで友達と遊ぶ。(複数回のNIEタイムを使って実施)

##### ② 実践の実際

すごろくを作るために、児童は新聞の写真に夢中になって探し、よく見ていた。自分の気に入った写真を使ってすごろくを作り、吹き出しには「メダルをもらった。3マス進む」や「野球に夢中！1マス戻る！」などと書き込んでいて、写真から出来事を想像したり、自分の生活経験から出来事について解釈したりしていた。作ったすごろくで友達と遊ぶことで、友達がどんな写真を気に入ったのか、写真からどんなことを想像したのかに気付くことができた。活動後に「また作りたい。」と声を出す児童が多かったことから、新聞に親しみ、新聞との距離を縮めることができたと考えられる。



児童が作った「写真すごろく」



## 5 成果

### (1) 児童の変容について

今年度、NIEに取り組み、新聞を活用しながら人の思いや生き方を学ぶことを積み重ねたことにより、児童に変容が見られた。

まず、社会事象に興味・関心をもつようになったことである。NIEを通して、児童は学校や身の周りの生活と世の中の出来事が関連していることを知り、世の中の出来事への興味・関心を高めた。そして、さらに知りたいという意欲をもった児童は、新聞を手にとって読むようになった。また、社会事象に興味・関心



をもつようになったことで、以前にも増して教科等の学習やN I E への意欲が高まってきた。

次に、様々な立場から物事を考えられるようになってきたことである。N I E で人の思いや生き方を学んだことで、人はそれぞれの思いをもっていることや、人の思いは多様であることを児童は感じるようになった。これにより、物事を自分の立場で考えるだけでなく、他者の立場からも考えられる多角的な視点をもつ児童が増えてきた。



そして一番大きな変容は、日常生活の中で人の思いを推し量るようになってきたことである。新聞から人の思いや生き方を学ぶN I E を積み重ねたことで、児童は、新聞を活用した授業場面だけでなく、日常生活の中で直接関わる人の思いも自分から推し量るようになった。そして、相手の思いを推し量った上で、自分から望ましい行動を取る姿が見られるようになってきた。今年度、暑い中でも外仕事に励む職員に「いつもありがとうございます」と声をかけたり、除雪作業をしてくれた方に感謝の手紙を贈ったり、これまで見られなかった児童の自主的な行動が表れるようになってきた。これは、当校で取り組んできたN I E の効果によるもの大きいと考える。

これらの変容だけでなく、昨年度よりいじめなどの生徒指導上の大きな問題が減ったこと、児童が落ち着いて学校生活を送っていることから、当校の児童の心は確実に育ってきていると考える。次年度も「心を育てるN I E」を継続し、全職員で研究の目的や有効なアイデアを共有しながら、新聞を活用した児童の心の育成をさらに推し進めていく。



## （２）新聞の活用方法について

人の思いや生き方を学ぶための新聞活用で有効だった手立ての一部を挙げる。

### ① 新聞を児童にとってより身近なものにするために

- ・記事の提示方法を工夫して興味をもたせたり、記事の人物や出来事との接点を自覚させたりして記事を身近に感じさせる。
- ・記事に使われる言葉について、実態に応じて必要な解説を加える。

### ② 新聞を読ませ、人の思いや生き方を学ばせるために

- ・授業の組み立てをシンプルにすることで、人の思いや生き方について考える時間を確保する。
- ・記事の人物について多面的に考えられるような発問（例「マスクを作った中学生に大変なことはあったか?」「口下手な作者が『ありがとう』と言えたきっかけは何だろう?」等）を工夫する。
- ・インタビューやビデオレターなどで直接思いを聞く。

（貝瀬 健太郎）